

平成28年度 事業報告書

(抜粋版)

特別養護老人ホーム 鵠 生 園

ケ ア セ ン タ ー 鵠 生 園

特別養護老人ホーム 関野記念鵠生園

藤沢市片瀬海岸1丁目7番9号
社会福祉法人 上村鵠生会

I 社会福祉法人 上村鵠生会

1. 年次報告

- 平成28年4月1日 ○藤沢市と平成28年度の下記事業について業務委託契約を締結
- (1) 湘南なぎさ荘管理業務
 - (2) 緊急通報システム事業受信センター運營業務
 - (3) 徘徊高齢者SOSネットワーク事業
 - (4) 生活支援型一時入所事業
 - (5) 藤沢市包括的支援事業（藤沢市鵠沼南地域包括支援センター）
 - (6) サロン元気業務委託契約締結
- (財)藤沢市社会福祉事業協会と藤沢市給食サービス事業について
給食業務委託契約を締結
- 4月 1日 藤沢市より平成28年度藤沢市老人福祉施設施設整備補助金の付決定を受ける
- 4月16日 片瀬海岸クリーン活動
- 4月28日 藤沢市と元気はつらつ健康講座業務委託締結
- 5月12日 監事監査
- 5月13日 神奈川県より平成28年度老人福祉施設施設整備費補助金の交付決定を受ける
- 5月21日 平成28年度第1回法人評議員会・理事会
- (1) 平成27年度 事業報告について
 - (2) 平成27年度 決算報告について
 - (3) 平成27年度 監事監査報告について
 - (4) 新施設整備計画の進捗状況について
 - (5) その他
- 6月 4日 ボランティアとの連絡会（デイ・さんぽ）
- 6月15日 ホーム利用者レントゲン検査
- 6月17日 白鳥会総会
- 6月21日 新人職員防災訓練
- 8月 6日 開園記念祭実施
- 8月25日 法人資産総額変更登記
- 9月 1日 藤沢市と家族介護者教室事業について業務委託契約を締結
- 9月 2日 藤沢市と通いの場（委託型）業務委託契約を締結
- 9月 6日 防災訓練（通報・避難・消火）実施
- 9月12日 荒井こと氏十一回忌
- 9月18日 敬老会（ホーム）
- 9月20日 常立寺慰霊墓開眼供養
- 9月28日 職員健康診断
- 10月 1日 赤い羽根共同募金（小田急片瀬江ノ島駅にて）
- 10月11日 職員会議①、19日 職員会議②
- 10月13日 鵠生園デイサービスさんぽ、藤沢市介護保険課実地指導
- 10月14日 車椅子利用高齢者江の島見学会
- 10月15日 片瀬地区防災避難訓練参加（片瀬小学校集合）
- 10月21日 特別養護老人ホーム関野記念鵠生園 上棟式
- 10月22日 ボランティアとの連絡会（デイ・さんぽ）
- 11月 1日 藤沢市津波避難訓練
- 11月 2日 多田すゑ氏四回忌
- 11月20日 竜ノ口町内会 市内一日清掃デイ参加
- 11月29日 藤沢市内施設実践事例発表会 ホーム発表

- 12月 2日 第三者委員会
 12月 2日 平成28年度第2回法人評議員会・第2回法人理事会
 (1) 平成28年度上期(4~10月累計)の収支状況について
 (2) 関野記念鶴生園の施設整備状況について
 (3) 関野記念鶴生園の施設整備費の追加の件について
 (4) 社会福祉法等の一部改正による定款変更の件について
 (5) 特別養護老人ホーム関野記念鶴生園の施設長の選任の件について
 (6) 就業規則(休日)の改正の件について
 (7) その他
 12月11日 餅つき大会実施

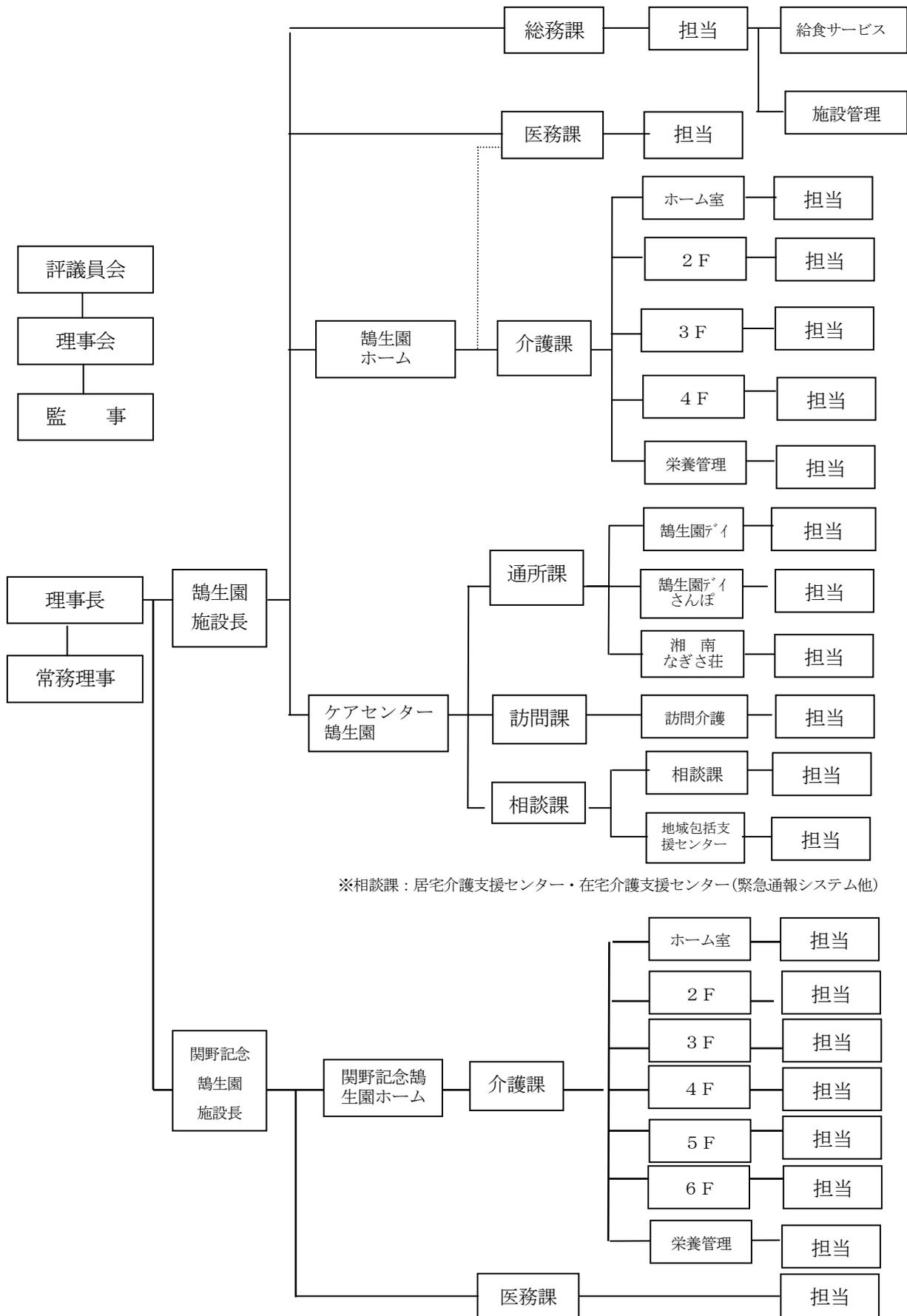
平成29年

- 1月 1日 ホーム祝膳・獅子舞
 1月 5日 藤沢市賀詞交換会
 1月 6日 県社会福祉協議会新年賀詞交換会
 1月 7日 片瀬地区社協新年賀詞交換会
 1月 8日 鶴沼地区社協新年賀詞交換会
 1月16日 特別養護老人ホーム関野記念鶴生園施主検査
 1月30日 株式会社門倉組より特別養護老人ホーム関野記念鶴生園を引渡される
 2月10日 白鳥会親睦会
 2月14日 防災訓練(津波避難訓練)
 2月21日 特別養護老人ホーム関野記念鶴生園竣工開所式
 3月 3日 緊急通報協力員会議
 3月10日 特別養護老人ホーム関野記念鶴生園開所
 神奈川県より介護保険事業所指定(特別養護老人ホーム関野記念鶴生園、鶴生園短期入所サービス)
 3月17日 平成28年度第3回法人評議員会
 (1) 平成28年度事業計画の経過について
 (2) 平成29年度事業計画案について
 (3) 平成29年度予算案について
 (4) 定款変更(基本財産の追加)について
 (5) 社会福祉法等の一部改正による定款変更(基本財産の追加)について
 平成28年度第3回法人理事会
 (1) 平成28年度事業計画の経過について
 (2) 平成29年度事業計画案について
 (3) 平成29年度予算案について
 (4) 定款変更(基本財産の追加)について
 (5) 社会福祉法等の一部改正による定款変更(基本財産の追加)について
 (6) 定款(案)第6条の評議員選任・解任委員会の外部候補について
 (7) 評議員の候補の件
 (8) その他
 平成28年度第1回評議員会選任・解任委員会
 (1) 評議員の候補の承認について
 3月22日 職員会議

2. 人事（組織及び職員構成）

1) 平成28年度 社会福祉法人上村鵠生会 鵠生園 組織図

平成29年3月31日



Ⅱ 特別養護老人ホーム鵠生園

1 介護課

介護保険制度改正のたびに入所者の重度化への対応が求められていく中、現在当施設でも新規入所者の要介護度は4、5の利用者が全体の7～8割程度になるように入所調整を行っている。入所者の要介護度が高くなることで、職員の介護負担が増えることは当然だが、同時に医療依存度が高い方も増えている。誤嚥性肺炎、転倒による骨折、脳梗塞など加齢に伴う疾患で入院加療を要する方が増えており、平成26年度に148日だった入院日数が、平成27年度には249日、平成28年度には403日と大きく増えた。空床はショートステイの利用者に出来るだけ利用していただくが、完全にはカバーしきれず、収入が減少する要因になっている。また2月、3月に流行したインフルエンザによってもショートステイの利用を一時的に中止せざるを得なくなり、その影響が収入減少につながってしまった。

また、今年度は関野記念鵠生園の立ち上げがあり、職員の異動や研修など、人間的に変動の多い一年となった。新施設への異動を見越して年度初めから半ばまでは多くいた職員数が、異動後の年度末には逆に人員不足気味となり、介護職員だけでなく相談員、看護師含めと全体でカバーするように努力しているが、個々の職員の負担がかなり重くなっている現状がある。職員の採用については総務と連携をとり、今後も計画的に人材確保に努めたい。

特養、有料ホーム、グループホームなど近隣に新規施設が増え、入所待機者、ショートステイ利用者が大幅に減少している。待っていても特養に利用者が来る時代ではなくなっていることを強く認識し、利用者を選ばれる施設であるよう、努力していきたい。

2 医務課

前年度と同様、転倒により大腿部頸部骨折のため3名の利用者が入院。また、嚥下機能低下に伴う誤嚥性肺炎のため9名の利用者が入院となったため入院日数が前年度より増えています。誤嚥性肺炎で入院された9名の利用者の中2名の利用者は食事が摂れずご家族の意向もあり退所となりました。

昨年度は全国的にインフルエンザが猛威を振るっていましたが、鵠生園でも初めて多くの利用者や職員が罹患者となりご家族にはご心配おかけしたと思います。インフルエンザのマニュアルがありますが少し曖昧な部分もありインフルエンザが拡散してしまった様に思いますのでこれを機にマニュアルの見直しをしていきたいと考えております。

年々、医療を必要とする利用者や特別養護老人ホームでは対応できないケースも増えています。早い段階でご家族と話しをしご家族や利用者が安心して最期を迎えられるような体制を継続していきたいと思っています。

3. 栄養管理

毎月開催される「利用者懇談会」には、ショート利用者も含め10～15名の利用者が参加されます。色々な話題がありますが、一番積極的に声が出るのは「食べ物」に関する事です。少しでも希望がかなえられるように、委託会社の栄養士にも出席してもらい献立に取り入れてもらえるようにしています。

希望献立は「握り寿司」「ウナギのかば焼き」「焼きそば」「餃子」などです。

少しずつ食欲が落ちて、体重が減少している利用者には、医務室と連携を取りながらご家族に、むかし良く食べられていた物で、食べやすいものを差し入れて頂けるようにお話をして随時食べて頂けるようにしています。

歯科医師や歯科衛生士との話し合いの中で、食物残渣が口腔内に多いなどの指摘を受け、食形態の変更や、歯磨きの見直しなど改善されることが多くありました。

これからも多職種と協働しながら、より良い食事提供ができるようにしたいと思います。

4 ショートステイ

稼働率が高くなったが、通常のショートステイ利用に加えロング入所者の外泊・入院・退所等での空床が多く見られ追加利用などで調整した。担当者会議への参加を重要視し極力参加しそこでショートステイプランについて意向に沿っているか、状態変化等による内容の変更等確認しながら利用方法（日数や回数について）や今後の生活の希望（在宅か入所希望があるのか）等も出来る範囲で確認させて頂きながら利用者や家族の考えも理解するよう心がけた。ショートステイプランが利用中に実施出来ているのかも現場への確認も時々行っていくようにし、現実的に行える内容か厳しいものなのか見極め内容によって利用者家族の理解を求めた。また男性の利用者が増えてきて、男女ともに平均年齢と平均介護度も少し上がった。ロング入所申し込み者にショートステイを利用して頂き、施設での生活状況など見させて頂きスムーズな入所への移行となるケースも何件かあった。周辺地域に新たな介護施設や短期入所施設が複数出来てきた為、利用者が拡散したり入所によるサービス終了者や新規依頼も少なかったが「鶴生園で利用したい」と言って下さる家族もいた昨年同様個別の希望などに出来る限り対応しながらケアマネ・家族とも連携を取り信頼されるサービス事業所となるよう努力していきたい。

Ⅲ ケアセンター 鶴生園

1 鶴生園デイサービスセンター

年度前半は、なぎさ荘の業態変更に伴い移行された利用者が多く、高水準の数字を残す事が出来た。そこで職員の負担等考慮し、新規受け入れを止め、平均利用者数の自然減を目指した。

しかし、数か月に及び新規を止めていた事が影響し、新規依頼数が激減。合わせて度重なる施設入所、逝去等重なり、当初目論んでいた減少幅を大きく超えてしまった。

更に関野記念鶴生園開所に伴い、入所される方数名あり更に経営状況が厳しくなった。経営状況改善を図るため、人員配置・入浴等業務内容の見直し、組織力強化、居宅事業所との信頼関係構築を行いあらゆる方向性に対応出来るよう努めた。

同時進行で、なぎさ荘・さんぽデイと協力し積極的な営業活動、公共の場へのパンフレット設置、老人会へのアプローチ、送迎範囲拡大、入浴枠拡大、1日型を希望する予防の受け入れ開始【1日5名枠】等を行っている。

また、通所課としての相互理解と相互協力を強化する為、人事交流を頻繁に行っている。この事により、通所課内の人事異動等の場合、スムーズに対応できる基礎を固めた。

来年度の介護保険改正によって、軽介護度の介護報酬が下がる可能性が謳われている。

あらゆる努力、情報収集、時流を見定めた方針決定、労力コストに見合った加算取得の検討、等を進めていく。万が一運営状況が現状のまま推移、若しくは下降の一途を辿るような最悪の場合も視野に入れ戦略を考えて行く事としたい。

2. デイサービスさんぽ

昨年も前年度同様、ご利用者の入所や入院、ショートステイによるキャンセル等が多く稼働率は伸び悩む。

ご利用者の多くが週3日～5日のご利用であることから、入所や入院が複数重なりと全体的に利用率が低下し、中止者数に新規依頼数が追いつかない状態が続く。

しかし、新年度は新規依頼や複数回希望等が続き、安定した稼働率が維持出来ている。

なお、さんぽにおける個別ケアは職員だけの努力で実現出来るものではなく、ボランティアさんのサポートを頂ければこそその対応。

私たちはご利用者・ご家族の声とともに、ボランティアさんの声も聞かせて頂きながら、関わる多くの方に、さんぽを選んで良かったと喜んで頂けるサービスを引き続き目指していきたいと思えます。

3 湘南なぎさ荘

平成28年4月1日、要支援専門デイサービス「シニアフィットネス湘南なぎさ荘」開所。

自包括・居宅の協力を得、数多くの利用者を紹介してもらった。結果目標数到達への大きな源となった。

また、他事業所への営業を毎月欠かさず実施した結果、徐々に問い合わせや新規依頼数も増えてきた。プログラムであるチェアヨガやコグニサイズ運動等、スタッフが始めて取り組む内容ばかりであったが、情報共有と見直しを継続的に行ない、利用者のニーズに合った内容に近づく事が出来たと思われる。

尚、昨年10月より日常生活支援・総合事業へ移行する為、ご利用者への契約の切り替えなど、

ソフト面に関しても多忙な一年であったが、職員間で支えあい乗り切る事が出来た。この事が確固たるチームワーク構築に繋がり、更にはスタッフ全員のスキルアップを図れた年度であった。

次年度はご利用者やケアマネ事業所のニーズを元に更に利用率を上げていく努力を怠らず、全ての曜日が開所出来るようにしていきたい。又、なぎさ荘での運動を通し利用者一人一人の、体力維持・向上を目標とし、利用者が望む形の在宅生活を継続出来る様、支援していきたいと思えます。

4 ホームヘルプサービス

今年度は、職員の稼働日数が増えたため、新規依頼をスムーズに受けることができ、利用者数・訪問件数ともに増え、収益を上げることができた。10月から総合事業移行により、介護報酬が下がり影響が出たが、訪問エリアを広げ件数を確保することで稼働率を上げている。

職員の確保に努め、依頼に際しては迅速に対応し、質の良いサービスを提供することが、事業所として安定した運営ができることを再確認した。

5 居宅介護支援センター

本年度も7名体制でスタートした。2名のケアマネジャーの関野記念鶴生園準備室への異動が9月10月と決まっていたため引継を8月より開始した。しかしながら後任ケアマネジャーが1名しか確保できなかったため8月より一時的に新規を止めざる負えず件数が減少した。その後どうにかケアマネジャーの採用が決まり10月に着任、年度末まで7名の体制が維持出来た。

一旦減少した件数は後半に新規の相談を多く受けたにもかかわらず伸び悩んだが、年度末にはほぼ目標の230件というところで一年を終えることが出来た。

今年度の特徴として新規の相談件数が昨年より25件増えていたこと、それにもかかわらず終了件数が多く結果件数が減少したこと、介護度について要介護1・2が増加し、要介護3・4が減少したことがあげられる。この二点から介護者の意識の変化として在宅より施設を選ぶ傾向が強くなっていることが感じられた。

相談件数の増加は居宅職員が努力し、近隣包括より評価を受けていること、法人職員全員の努力により鶴生園が片瀬・鶴沼地区で高評価を受けていることの現れと考えられる。

経営面では、改正後の新特定事業所加算Ⅱの算定基準がより厳しくなった中、主任介護支援専門員が主任介護支援専門員としての更新研修を受けることが出来たこと、介護支援専門員試験合格者の実務研修実習受け入れが実現できたことで加算Ⅱの体制が維持でき黒字で決算で終えることが出来た。

職員については、今年度は当事業所の居宅の経験が1年目、2年目という職員が7名中5名となっていたが、新人研修・同行訪問・毎週のケース検討・勉強会のほか、各自年3回以上外部研修への参加を義務づけ、研修報告や現場実践報告を通じてプランに還元できるように努めた。職員も積極的に自己研鑽に勤め、実力をつけ利用者・事業所より良い評価を得ることが出来ている。

また、地域の中核的な居宅介護支援事業所として、困難ケースについても依頼があれば受け、法人内はもとより、他事業所や行政・包括・病院等の関連機関と連携しながら柔軟に対応し、利用者の尊厳を守りつつ支援することが出来た。

6 藤沢市鵠沼南地域包括支援センター

平成 28 年度は 10 月から藤沢市の介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）がスタートした。事業開始に伴う準備や、開始後は新たに増えた書類や請求業務等に翻弄される 1 年となった。総合事業の開始に伴い特に藤沢市へ提出する書類が多く、また制度が煩雑となり、特に事務的業務量が増えている。今後、書類や業務の整理や効率化が求められる部分である。

地域包括支援センターの業務全般としては、引き続き地域の団体や、地域の方との関係性の構築、維持を念頭に、地域団体などの集まりや地区内のイベント等への参加を行なった。今後も、地域の団体や地域の方と一丸となった地域づくりの検討、そして地域包括ケアシステムの構築に向けたネットワークの形成を目指して行きたい。

7 緊急通報システム

平成 28 年度は、新規 3 名、廃止 13 名。廃止の内訳は施設入所 10 名、本人の意向 2 名、親族の同居が 1 名だった。特に本人の意向による中止は、週 1 回の定時連絡で、電話の前になければいけないのが煩わしいとの理由であった。その反面、電話が来る事で安心できる利用者も存在し、このシステムが独居の方への安心につながってる事業でもある事がわかる。

また、身体状態の低下や認知症状の進行による施設入所も顕著だった。新規でサービスを利用する際は、全く問題無かったが、独居生活が長くなるにつれ、徐々に支障が生じ、介護保険の認定を経て常に周りからの支援がないと、生活できない状況になった例が多かった。

特に事例では認知症状が進み、コールを押すという行為に対する理解が低下し、何度もコールを押し、本人が混乱する事があった。

今年度のテスト通報は 7～10 月に、職員が持ち回りですべての利用者宅を訪問し機器の動作確認、および近況の聞き取りを行い、今年度から利用者全員にペンダントの電池交換を実施した。また、聞き取りをした最新情報を必ずフェイスシートにパソコン入力し、最新版としてケースファイルに挟む事とし、情報共有を行った。

関野鵠生園の開設による人事異動により、夜間や深夜の当番職員体制を、地域エリアによる常勤の男性職員に限定する事で大幅に変更した。

協力員連絡会については、平成 29 年 3 月 3 日に鵠生園にて開催。協力員 20 名の出席が得られ、片瀬、鵠沼東、鵠沼南、各包括支援センターの担当者にも出席していただいた。

緊急時の通報、相談通報、週 1 回の定時安否確認の 3 つの柱を緊急通報システムの事業として行い、利用者が在宅生活を安心して過ごせるよう、加え協力員、民生委員、担当の包括支援センター、ケアマネージャーと連携を取りながら利用者のサポートに努める事とし、今後も、関係者、関係機関と連携しながら事業に携わって行きたい。

8 老人介護支援センター

鵠生園独自事業として、藤沢病院の石井運動指導士をお招きし、体操講座「健康サポート」を毎月1回定期的に開催し、毎回60代から80代後半までの幅広い参加がある。介護予防、健康づくりの場として毎回好評を得ている。

市からの委託事業については、一般高齢者並びに特定高齢者対象の介護予防事業「サロン元気」（年22回開催）及び「家族介護者教室」（3回コース）「元気はつらつ健康講座」（3回コース）を藤沢市から受託し、講座を企画・運営した。「サロン元気」に関しては、10月～通いの場へ変更となり、介護予防での運動主体の内容になった、参加対象者も市内在住の65歳以上で、地区別ではなくなったのと、直接会場まで自力で来れば、介護認定者でも構わないと対象範囲も広まった事で、登録人数も増加した。

片瀬地区社会福祉協議会の運営する片瀬ボランティアセンターでの介護相談窓口についても、引き続き介護の専門職のアドバイザーとして月2回対応した。また片瀬ボランティアセンターにおいては、昨年に続き片瀬包括支援センターと連携し、月1回「ミニ講話」を開催。健康や介護予防などのテーマで、毎回10人程度の参加があり好評であった。加え片瀬地区社会福祉協議会主催の「介護者のつどい」にもファシリテーターとして参加し、片瀬地区の介護者の悩みを片瀬包括支援センターと共に伺った。また、片瀬包括・藤沢市高齢者支援課が主催する片瀬地区小地域ケア会議にも、地区のケアマネジャー代表として参加、1月には地域住民対象の地域交流会へも、ファシリテーターとして参加し、地域の課題や思いを共有できた。

今後共、自治体、地区の社会福祉協議会、地域包括支援センター、老人会などとの連携を密に取り、地域に密着した活動を行い、地域に貢献できる在宅支援センターとしての役割を継続していきたいと考える。

9 給食サービス

平成28年度の新規利用者が13名で前年度比7名減となった。新規の内訳については、鵠沼東包括3件、居宅事業所が10件となっている。また、廃止者9名の内訳としては、死亡や有料ホーム等の施設に入所される理由のほか、他介護サービス利用開始や家族援助によるため廃止となるケースであった。

総配食数は5,347件で前年度比426件増となった。平成27年度下半期からの増加傾向を維持し、平成28年度上半期までは前年度を上回る件数であったが、下半期は新規利用者が伸び悩み、一方で廃止者数は増加し、全体的な件数は減少傾向にある。

平成28年度末実利用者の平均年齢は85.6歳。新規から複数回利用、あるいはプランに変更による複数回利用となるケースも見られ、「点」の見守りから、「面」での見守りをご利用者等からは期待されていると思われる。

給食をお配りするだけでなく、テーブルセットや移し替え等の各利用者状態に合わせた食事・配膳形態への対応が求められている。配食時間に制約がある中で、安全かつ確実に配食できるよう配食状況に合わせて体制を適宜見直していきたい。

10 徘徊高齢者SOSネットワーク

平成28年度末で登録者数は164名となっていて、登録者の平均年齢が83.2歳となっている。28年度中の廃止者数は21名、新規登録者数は48名となっており、登録者は藤沢市南部、北部ともに増加している。今年度は施設への緊急の受け入れ依頼はなかった。

これからも一時保護入所や確認手続きについて、関係機関と協力をし、高齢者等の生命の安全を図りたい。

IV 特別養護老人ホーム関野記念鶴生園

1 ホーム室

円滑なスタートとは言い難い実情ではあるが、限られた準備期間・体制、又、施設管理経験者が僅かしかいない構成のなかでここ至れたのは既存新任問わず、誰もが良い施設を作りたいという真摯な気持ちの結果。

新しい建物にすべての方が新規入所、そして多くを占める新任職員。

把握や習熟、連携という過程が万全とは言えない状況にはあるも、戸惑いを笑顔で覆いながらケアに努めている。

尚、職員採用は予想通り厳しい状況だが、それでも志高い方が確実に集まり、職員充足も間近。

これも上村鶴生会が長年培ってきた信頼故かと。

次年度は既存職員の習熟度を高めながら、早々の満床を目指し、立ち上げ期間の労苦を皆で笑い話せるようにしたい。

2 医務課

3月10日から入所受け入れを開始し3月31日までの間に37の方が入所されました。

その中で入所後、食欲低下や硬膜下血腫、不穏が強くなり3名の利用者が入院となりました。

高齢者にとって慣れた環境は大切に環境が変わる事で状態変化を起こしやすくなります。

これから入所される利用者もいますので状態変化を早めに察知し過しやすく安定した環境を提供していきたいと思えます。

ターミナルも行っていきますので他職種と連携をとりより良いケアを提供していきたいと思えます。

3. 栄養管理

3月10日の開所にもない3月1日より試作を開始し、栄養課職員（委託会社含む）とフロアー職員とで食形態の周知、温冷配膳車の導入による配膳下膳方法の検討を行いました。

献立・形態等を片瀬鶴生園で確立されたものを導入させていただいたことは、開所当初から利用者さんへの食事の提供がスムーズにおこなえた利点でした。

平成29年度4月より毎月「給食会議」（栄養課職員とフロアー主任・ユニットリーダー）を開催していきます。今後は片瀬で実施されている「利用者懇談会」のような利用者さんのご意見もより反映できる場も設けていきたいと思えます。

経口維持加算等の導入にむけて、ご利用者さんの摂食嚥下および栄養状態の把握をし歯科医師や歯科衛生士と連携がとれるようにしていきます。

当面、すべてのご入居者の方が新規入居者となるため、ご家族、そして他職種と連携を取りより良い食事提供ができるようにしたいと思えます。

V その他活動状況

1 ボランティア活動状況

1. 事業開始（昭和49年8月）から年度別登録者数（1）と平成28年度末現在の継続活動者数（2）

年度	(1)	(2)			
		ホーム	鶴生園デイ	さんぽ	湘南なぎさ荘
昭和 50	3				
51	2				
52	0				
53	2		1		
54	0				
55	2				
56	4				
57	2				
58	3				
59	3				
60	1				
61	3				
62	6				
63	5		2		
平成元年	16				
2	19	1			
3	16	1			
4	36				
5	31				1
6	9				
7	8	1			
8	14				
9	17	1			
10	17				
11	14	1	2		
12	3		2		
13	26	3			1
14	36	2	3		3
15	76	12	1	1	1
16	39				1
17	31	1			
18	55	2	11	1	2
19	8	5		1	1
20	20	1	1		
21	10	1	2		2
22	12	5	2		1
23	19	4	2		2
24	14	3	2		2
25	11	4	1	1	1
26	11	7	4		
27	9	3	6	1	1
28	2	2	5		2
計		60	47	5	21

2. 平成28年度末現在の登録者状況

1) 活動者数と男女の比

活動者総数 133名	男	14名
	女	119名
	計	133名

2) 活動場所

事業所	計	男	女	27年度
ホーム	60	8	52	79
鶴生園デイ	47	5	42	44
さんぽ	5	0	5	5
なぎさ	21	1	20	19
合計	133名	14名	119名	147名

3. 平成28年度活動延べ回数

1) 特別養護老人ホーム鶴生園

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	157	158	177	163	138	160	146	149	163	116	107	160	150名

2) 鶴生園デイ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	83	87	85	84	79	75	53	82	78	83	73	80	79

3) さんぽ

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	14	22	18	20	14	16	17	22	20	8	7	13	16

4) 湘南なぎさ荘

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均
延人数	62	57	55	56	55	56	46	58	41	33	42	64	52

2 役員・職員研修状況

月	日	日数	研修内容	参加者
4	3	1	プロのターミナルケア	
	16	3	介護技術研修（～5/13）	
	18	1	利用者本位ケアと権利擁護	
	20	1	人事労務管理研修（基本編）	
	21	1	新任福祉施設等職員合同研修	
5	13	1	介護事業所に求められるコンプライアンス研修	
	18	2	サービス提供責任者研修初任者研修	
	25	1	新しい認知症ケア	
	31	3	かなふく総合基礎講座（～6/3）	
6	2	1	第15回かながわ高齢福祉研究大会	
	5	1	プロのターミナルケア	
	7	1	県高齢協・第1回施設管理者研修会	
	8	1	新しい認知症ケア	
	8	3	社会福祉法人会計簿記研修（入門初級編）	
	10	8	ファーストステップ研修（湘南東部地区）（～2/14）	
	14	1	相談技術研修基本編	
	15	8	2016年度前期ユニットケア研修（～7/1）	
	24	1	ファシリテーター育成研修・実践編	
	27	2	第二種衛生管理者養成講習（～6/28）	
	28	1	介護職のための薬学知識	
	28	1	藤沢地区共同研修（安全運転研修）	
7	5	5	介護支援専門員更新研修（～8/24）	
	5	1	安全運転講習会（副管理者）	
	8	2	社会福祉法人会計簿記研修（中級編）	
	9	1	ファシリテーター育成研修・応用編	
	10	1	高齢者の胃ろうケアAtoZ	
	17	1	看取り期に望まれる実際のケア	
	26	1	医療職のための満足度100%の感動接遇	
	27	8	前期ユニットケア研修（～8/12）	
	28	1	アサーション研修	
8	2	1	バリデーション研修	
	8	2	第二種衛生管理者養成講習（～8/9）	
	19	1	地域包括支援センター職員等養成研修（初任者）	
	22	1	アサーション研修	
9	2	1	安全運転管理者講習会	
	9	1	藤沢地区共同研修（HUG体験）	
	14	1	対人援助にかかわる人のための講座	
	16	1	これから勝ち残る！人気介護施設の作り方	

	20	1	対人援助を築く成功の秘訣	
	20	1	実習指導者講習会	
	21	1	介護業界 人材定着マニュアル	
10	3	3	実務従事者フォローアップ研修	
	5	8	神奈川県介護支援専門員研修 専門研修課程 I (～1/15)	
	14	1	新感覚のオンリー1 介護術	
	14	2	社会福祉法人会計簿記研修 (上級編)	
	28	1	ファシリテーション研修	
	29	1	地域包括支援センター職員養成研修(現任者)	
	30	1	藤沢地区共同研修(実践事例発表会)	
11	3	1	認知症ケア学会 2016 年度関東大会	
	4	3	実務従事者フォローアップ研修	
	14	1	認知症?それともうつ病? ～正しい理解と適切なケア～	
	18	1	ファシリテーター育成研修 実践編	
	24	1	実地指導・監査の対応から学ぶ法令遵守の管理体制	
	29	2	コーチング研修	
12	14	8	主任介護支援専門員更新研修 (～3/25)	
	17	4	介護福祉士 実習指導者講習会 (～2/4)	
	20	1	ディズニーから学ぶ! 職員の育成と定着	
1	21	1	生活相談員等研修会	
2	9	1	県社協施設部会研修会	
	25	2	福祉従事者のための成年後見活用講座	
3	2	2	介護支援専門員更新研修 (～3/30)	
	2	1	病院・福祉施設等栄養士講習会	

3 実習生・見学受入れ状況

月	所属名	人員	日数	目的
5	フィールズ	1	3	初任者研修
9	フィールズ	3	3	初任者研修
1	フィールズ	2	3	初任者研修
平成29年 2月	湘南医療福祉専門学校	2	15	施設実習Ⅱ-1

4 地域貢献事業

1. かながわライフサポート事業

平成26年度に同事業へ参画し、平成27年度は本格的に活動を開始し、地域相談員となるコミュニティーソーシャルワーカー(CSW)は現在2名が研修を修了している。平成28年度は直接、鶴生園への相談事案はなかったが、事業の趣旨及び法人の取り組みとして行っていくことを新人職員等に周知を図っている。

5 その他

1. 平成28年度苦情・相談受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
苦情													0